

ちば経済フラッシュ

「ちば経済フラッシュ」は3、6、9、12月号に掲載します

千葉県経済の動き

概況

県内経済を見ると、輸出は堅調を続けているが、企業の収益環境の悪化や個人消費の低迷、住宅投資の不振などから、景況感が急速に悪化している。

千葉経済センターの「千葉県企業経営動向調査」(08年4月実施)によると、1～3月期の業況判断BSI(全産業)は▲八・一と前回(▲一・三)比六・八ポイント悪化し、5四半期連続で「悪化」超となった。

県内小売業の販売動向は、生活必需品が相次いで値上げされる中、株安、給与所得の伸び悩み、年金問題、政治の混乱など先行き不透明感の強まりから消費者心理が冷え込んでおり、総じて低調裡に推移している。ホームセンターでは、前年比で気温の低い日が多かったことにより、暖房用品の売れ行きは好調であったが、低単価商品が中心であったため売りが減少した。新車販売台数(軽含む)も、軽自動車は4四半期連続で減少したため、8四半期連続で前年割れとなった。

ここ三か月間(12～2月期)の県内新設住宅着工戸数は、前年同期比▲一・六%減少した。前年比の減少幅は縮小しているが、建築資材の高騰、所得の伸び悩み、昨年後半以降の地価上昇率の急速な鈍化から不動産価格の先安感が強まっており、土地取引が停滞し、マンションの売れ行きも低調となっている。

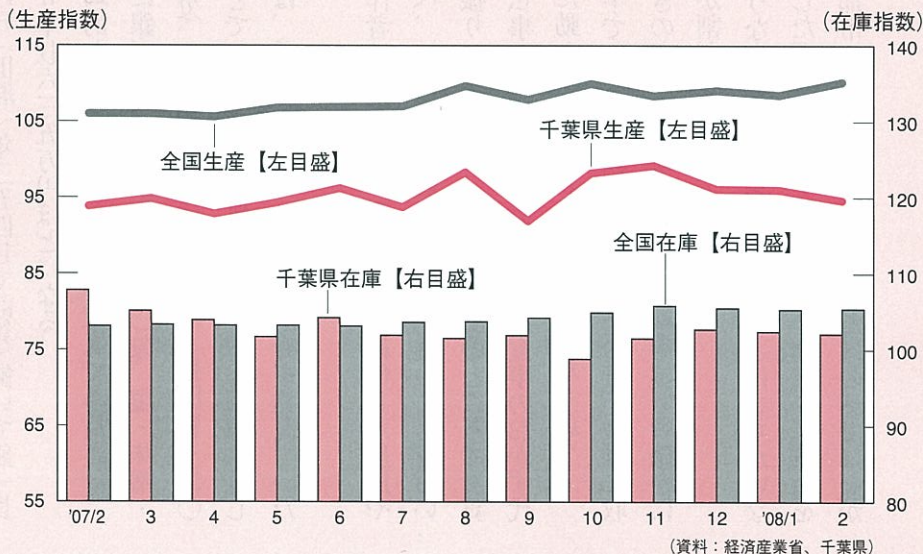
千葉県鉱工業生産指数は、情報通信機械工業、プラスチック製品工業などが減少し、二か月連続で低下した(11月九九・三→12月九六・二→1月九六・一)。

07年度設備投資実績額(08年4月調査)は06年度実績比▲〇・九%の減少となった。内訳を見ると、製造業、非製造業ともに同▲〇・九%減少した。期初計画比でも▲三・六%の下方修正となった。

千葉県の有効求人倍率(季調値)は07年6月に十五年ぶりに一倍を超えた後、07年9月～08年1月にかけて五か月連続で悪化した。2月は前月比横ばいとなった(12月〇・九〇倍→1月〇・八九倍→2月〇・八九倍)。

(福田)

■鉱工業生産・在庫指数 (季節調整済、千葉県2000年=100、全国2005年=100)



消費関連

08年1～3月期の県内個人消費は、生活必需品が相次いで値上げされる中、株安、給与所得の伸び悩み、年金問題、政治の混乱など先行き不透明感の強まりから消費者心理が冷え込んできており、総じて低調であったとの声が多い。

これらを映じて、1～3月期の県内個人消費関連業種の売上BSIは、ホテル・旅館(▲五・六)、サービス(▲三・三)、小売(▲一・七)の三業種すべてで「減少」超となった。三業種すべての

売上BSI値がマイナスとなったのは、04年10～12月期以来13四半期ぶり。

県内百貨店の1～3月期の売り上げ(2月はうるう年のため二八日換算)を見ると、食品部門は堅調に推移したが、主力の衣料品は2月に降雪があったことなどから春物商戦が不振に終わった。ほかにも、ブランド品や貴金属製品の伸び悩みなどから各月とも前年を下回った。

また、ホームセンター、自動車販売、外食産業などでも、天候不順やぜいたく消費を抑制する動きなどを背景に前年を下回ったとす(酒井)

食料品

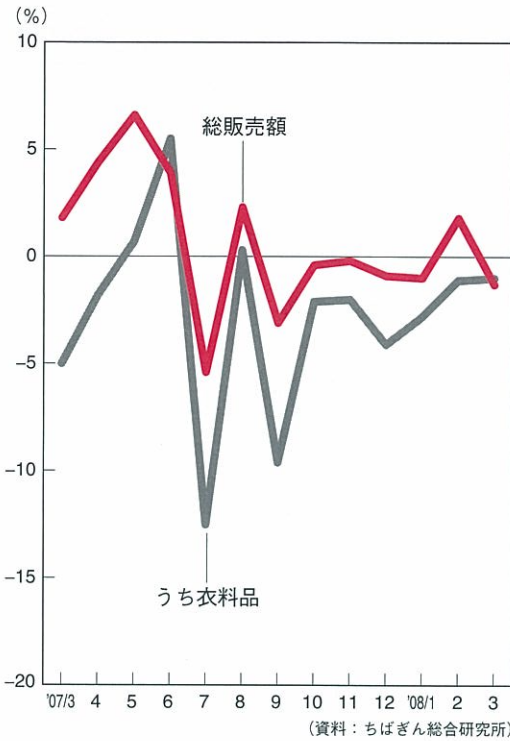
県内食料品メーカーの1～3月期の収益BSIは▲一・五と2四半期連続で改善した(07年10～12月期:▲六・九)。原料の穀物価格が大幅な上昇を続ける中、食用油業界や製粉業界などでは、販売

価格の是正や社内コストの削減で収益確保を図っている。しかし、穀物価格は、世界的な需要の拡大や食糧資源争奪戦などを背景に上昇基調が続くと見られており、先行きの収益BSIは▲一〇・六と実績比大幅悪化を見込んでいる。

食用油メーカーでは、販売価格の上昇により売り上げ、収益ともに前年度を上回った。仕入価格上昇分に対する販売価格への転嫁は、ほぼ一〇〇%できているが、原料価格の上昇スピードについていけず、転嫁時期は二～三か月遅れているとのこと。

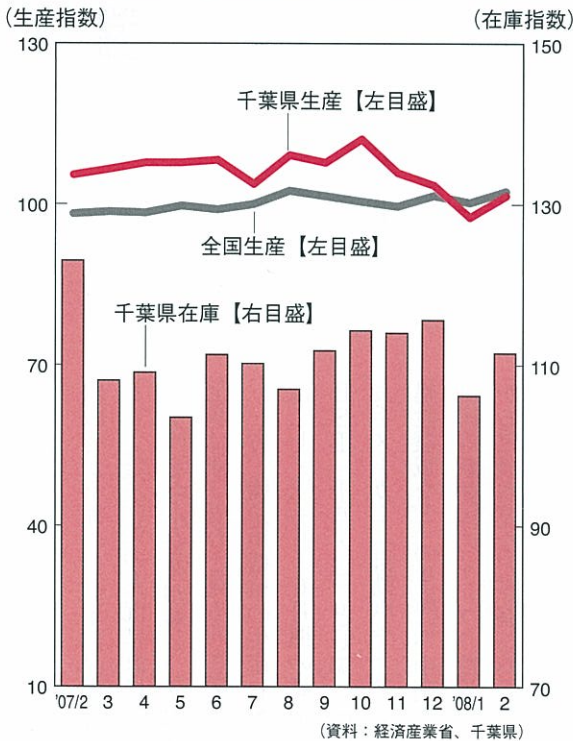
また、川下に近い食品加工メーカーでは、従来、経費を削減することで原料価格の上昇分を吸収してきたが、原料価格が急激に上昇しているため、自社努力でまかなえる水準を超えているとして、販売価格の引き上げを行っていくものとしている。(古川)

■千葉県百貨店販売額伸び率 (対前年同月比)



■食料品の生産・在庫指数

(季節調整済、千葉県2000年=100、全国2005年=100)



住宅・建設

県内の07年12月～08年2月期の新設住宅着工戸数は、前年同期比▲一・六%と前年比減少幅は縮小している(07年3～5月期…同▲十六・九%、6～8月期…同▲二六・〇%、9～11月期…同▲二九・六%)ものの、4四半期連続前年割れとなった。この背景には、賃金の伸び悩みや相次ぐ生活必需品の値上げに加え、昨年後半以降の地価上昇率の急速な鈍化に伴う不動産の先安感などから、エ

ンドユーザーの購買意欲が冷え切っていることがあり、07年12月～08年2月期のマンション契約率も六〇%(前年同期七一%)と、好不況の境界といわれる七〇%を下回っている。業界内では現状の不動態市況が続けば、過大な不動産在庫を抱えた先が資金繰りに行き詰ってくるとして、倒産懸念情報飛び交っている模様。

08年1～3月期の県内公共工事請負金額は、前年に成田空港関連や成田新高速鉄道整備事業などの大型工事があった反動減もあって、前年同期比▲六・七%と2四半期連続の前年割れとなった。(橋本)

■千葉県新設住宅着工戸数



機械

県内電気機械メーカーの生産動向は、一進一退を繰り返している。大手メーカーの08年度生産計画は、北京五輪特需を織り込んだものとなっており、県内中小電気機械メーカーからは、最近の急激な円高(07年12月末…一・三・七円/ドル)↓08年3月末…九九・四円/ドル)が大手メーカーからの受注価格の値下げ圧力を強め、収益悪化要因になると懸念する声も聞かれた。

県内一般精密機械の1～3月期生産BSIは、▲三・九(前回比▲

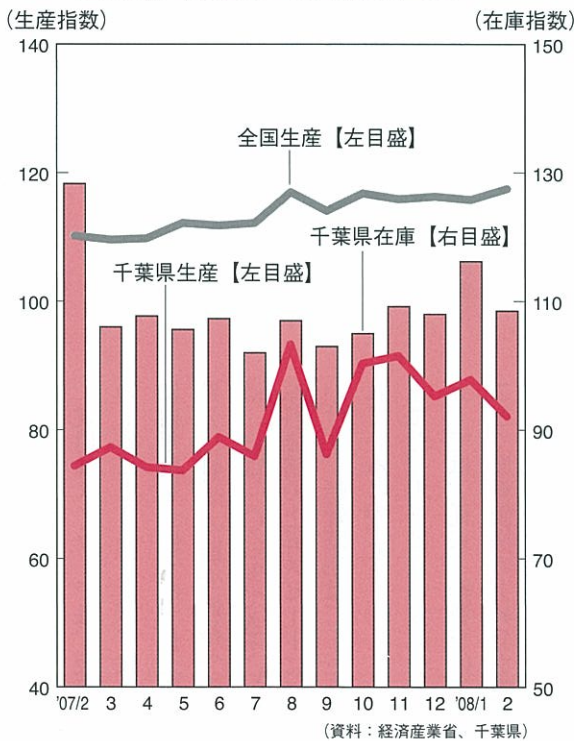
十一・六)と大幅に落ち込んだ。国内販売が不振の自動車部品製造業といった受注先の業況に直に影響を受ける中小企業が多く、今後生産は伸び悩みと見る向きが多い。

一方、輸送用機械の生産BSIは二七・三(4～6月期の見通しBSI…十八・二)と好調。国内大手メーカー(自動車やトラック、建設機械など)の生産は、中国や産油国等新興国のインフラ整備にかかる建機需要など旺盛な外需にけん引され好調裡に推移し、08年度生産計画も前年度同様強めにしていることから、県内の下請け企業の受注も好調を維持する見通し。

(橋本)

■機械の生産・在庫指数

(季節調整済、千葉県2000年=100、全国2005年=100)



ITソフト

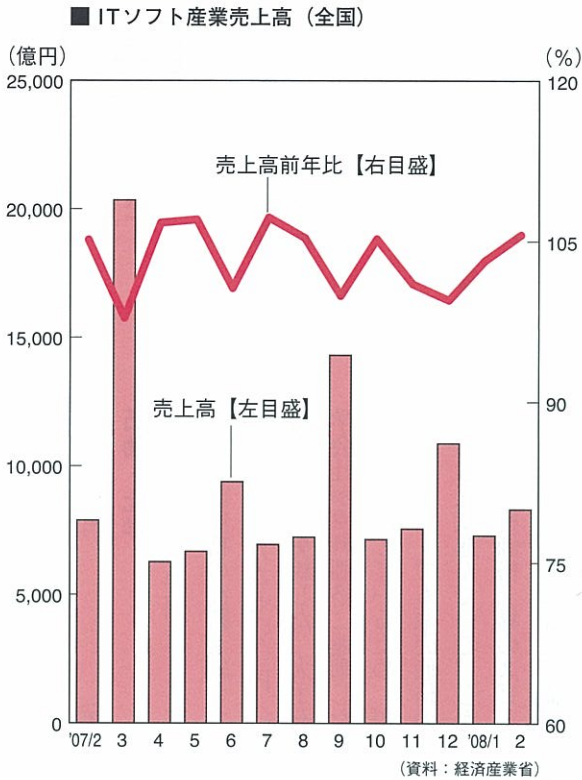
2月の情報サービス業(全国)の売上高は、前年同月比+五・六%増加となり、二か月連続で増加となった(1月・同+三・二%増加)。売上高の約七割を占める主力のシステム開発業務は、金融業向けの受注ソフトウェア開発が引き続き好調で、同+六・一%増加した。

県内のIT関連業者四二社で構成する協同組合の経営動向調査(08年3月実施)では、売り上げおよび雇用人員の項目で前年同月比

増加と回答する企業の割合が高まった。県内IT企業では製造業を中心にシステム開発の引き合いが強し、開発人員を確保できている企業では業績が堅調に推移している。

また、県内IT企業では競争力を維持するため、継続的なシステム投資を行い収益力強化に努める動きや、契約金額の高いコンサルティング業務に注力する企業なども見られた。

一方で、米国経済の失速、円高、原料価格の高騰、株安などの影響で製造業のIT関連の設備投資意欲の減退を懸念する声が多く聞かれた。(福田)

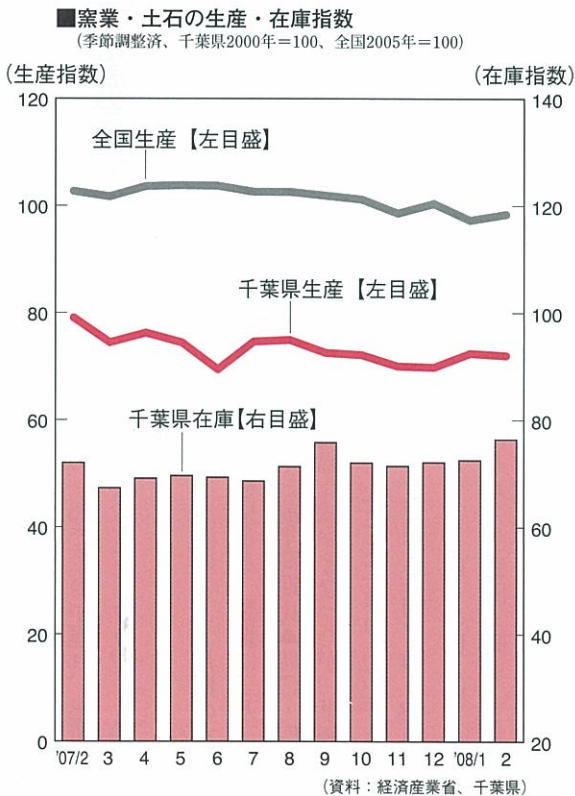


窯業・土石

県内の生コンクリート主要協同組合(北部・西部・中央)の1~3月期の出荷量は、前年同期比▲二九・五%減少と、4四半期連続で前年を下回った。これは、建築基準法改正による着工遅れの影響に加え、地価や鋼材価格の上昇、賃金の伸び悩みなどによりマンション向けを中心とした民間需要が低迷していることによるもの。

千葉中央協同組合(千葉・市原・袖ヶ浦)の1~3月期の出荷量は、前年同期比▲三二・四%と、

大幅に減少した。建築基準法改正の影響に加え、建築コストの増加や賃金の伸び悩みから開発計画自体が取り止めとなる案件も出てきている。千葉西部協同組合(浦安・市川・船橋など)の1~3月期の出荷量は、同▲二九・四%の減少。浦安・市川といった人気地域での用地不足や建築コストの上昇を背景にした販売不振などから08年3月まで十二か月連続で前年を下回っている。千葉北部協同組合(柏・松戸・野田など)の1~3月期の出荷量は、同▲二七・七%の減少となった。柏市、松戸市などで民間需要が低迷している。(福田)



鉄鋼 石油・化学

鉄鋼

1～3月期の県内高炉メーカー二社の粗鋼生産量は、世界的な鉄鋼需要の拡大を反映し、過去最高を更新した。

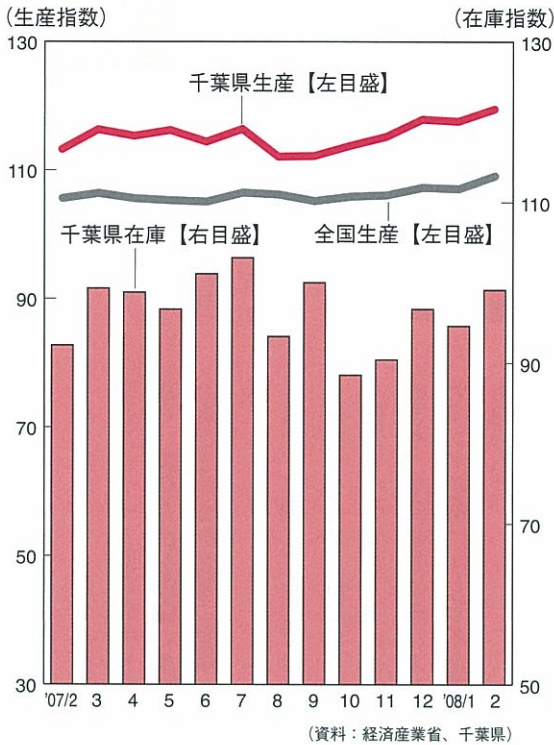
県内鉄鋼・非鉄金属企業（中小企業が中心）では、建築基準法改正の影響などで建築鋼材の需要が冷え込んでいる中で仕入価格の大幅上昇（同仕入価格B・S・I・三三・四）という過去に例を見ない厳しい経営環境となっており、資金繰りの悪化や倒産の発生が懸念

されている。
（福田）

1～3月期の国産ナフサ価格は、原油価格の高騰が続いている影響から六万六七〇〇円/kgと、過去最高を更新した。大手石油化学会社が原料価格に連動した値上げを打ち出しているため、川下の加工メーカーでも販売価格の是正はある程度進んでいる。しかしながら、原料価格上昇のスピードが急激であることに加え、価格交渉力に劣る中小企業では仕入価格上昇分の販売価格への転嫁不足が生じていることから収益が圧迫されている先が多い。
（福田）

鉄鋼業の生産・在庫指数

（季節調整済、千葉県2000年=100、全国2005年=100）



農業・漁業

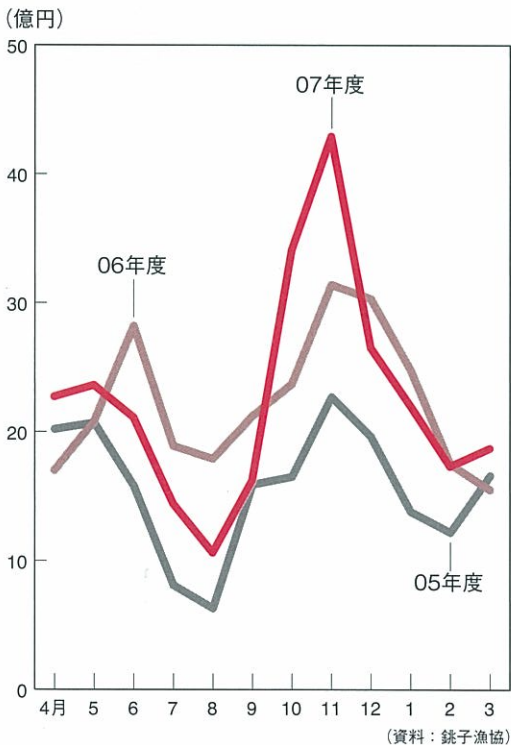
農業

1～2月期の千葉県産主要野菜一〇品目（カンシヨ、ネギ、トマト、ニンジン、ダイコン、ホウレンソウ、キャベツ、キュウリ、カブ、ゴボウ）の東京中央卸売市場への出荷は、数量が三万九五四〇と前年同期比+21.0%増加し、平均単価も一四五円/kgと前年を+31.4%上回ったことから、出荷金額は二八・二億円（同+33.1%）と大幅に増加した。

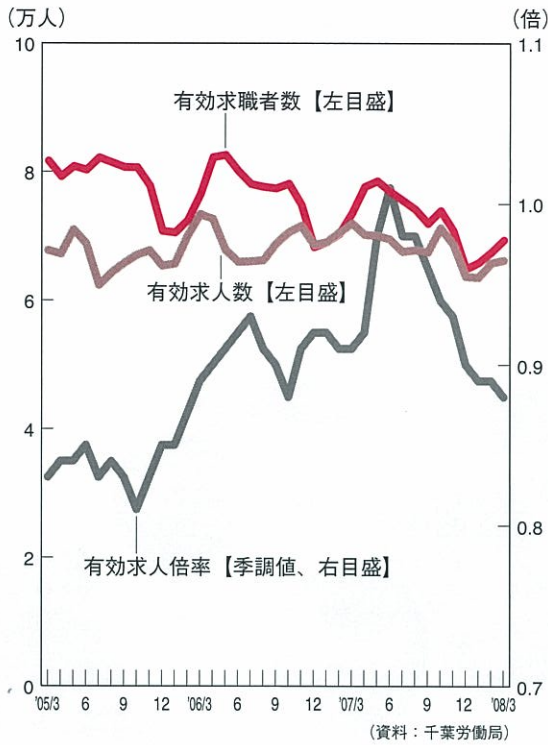
乾燥や日照不足の影響で、露地野菜の一部で生育が遅れ、出荷が減少したことによるもの。
（古川）

銚子漁港の1～3月期の水揚げ状況を見ると、数量は三万三三二五と前年同期比+40.4%の大幅な減少となったが、単価が上昇したことにより（07年1～3月：一〇三・五円/kg ↓ 08年1～3月：一七四・〇円/kg）、金額は五八・〇億円（同+0.3%）と前年をわずかながら上回った。勝浦漁港の1～3月期の水揚げ状況を見ると、数量は二五八八と前年同期比+1.9%、金額は十三・八億円（同+7.9%）となった。
（古川）

銚子漁港の水揚げ額



■千葉県内労働需給状況



千葉県の有効求人倍率(季調値)は6月に十五年ぶりに一倍を超えた後、07年9月～08年1月にかけて五か月連続で低下し、2月は前月比横ばいとなった(12月〇・九〇倍↓1月〇・八九倍↓2月〇・八九倍)。

2月の県内の新規求人倍率(季調値)を見ると、一・三六倍と前月比〇・四ポイント悪化した。主要産業別に見ると、春先の観光シーズンを迎えた飲食店・宿泊業(前月比+五七・一%)や慢性的な人

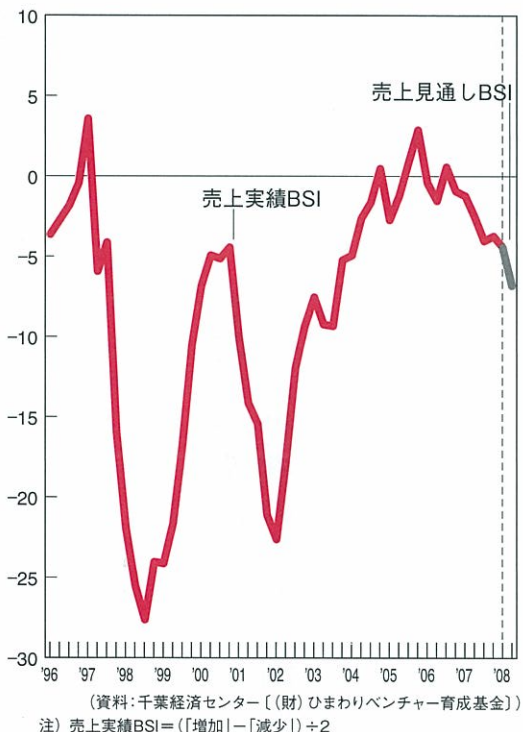
雇用

手不足が続く医療・福祉(同+一〇・六%)は増加したが、サービス業(同▲十三・〇)、運輸業(同▲一〇・五)、卸・小売業(同▲九・七)などで減少した。

雇用BSI(全産業)が七・九と15四半期連続で「不足」超となっているなど、県内企業での雇用不足感は依然として強いものの、原油価格の高騰や個人消費の低迷などで収益環境が悪化していることから雇用の手控え傾向が見られる。

一方で、スーパーや食品製造工場の現場などでは、パートやアルバイトの人員不足から、時給の引き上げなどを検討する先も見られた。(福田)

■企業経営動向調査 売上実績・見通しBSIの推移



08年1～3月期の県内企業の業況判断BSI(全産業)は▲八・一と前回(07年10～12月期)比▲六・八悪化し、5四半期連続で「悪化」超となった。このうち非製造業は▲四・二と前回比+二・〇改善したが、製造業は▲十一・四と前回比▲十四・〇と大幅に悪化した。非製造業の大企業では改善したが、製造業は大企業、中小企業とも大幅に悪化した。業況判断BSI(全産業)の「悪化」超▲八・一は、02年7～9月期の統計開始以来三番目に低い水準(03

企業経営動向調査(BSI)

年4～6月期▲九・九、03年1～3月期▲八・四)。また、製造業の▲十一・四は、統計開始以来最悪の水準となった(従来は02年7～9月期と03年1～3月期の▲八・七)。

売上BSI(全産業)は▲四・四と前回比▲〇・七悪化し、6四半期連続で「減少」超となった。07年度設備投資実績額(全産業)は、06年度実績比▲〇・九%の減少となった。期初計画比でも▲三・六%の下方修正となった。

雇用BSI(全産業)は七・九(前回比+一・〇)と「不足」超幅が拡大し15四半期連続で「不足」超となった。(古川)